

令和4年度 「美術Ⅰ」学習指導計画

学科	メカニカル工学科 電気科 建築家 商業科 生活福祉科 食物栄養科	学年	1	履修	選択
教科	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	2
教科書名(発行所)	日本文教出版 高校美術	副教材(発行所)		時数	70
目標	美術の学習を通じて、豊かな情操を育てるとともに、創造性を引き出すための技能及び批評と鑑賞の基本的な能力を養う				

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	学習課題	学習内容と目標	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	○日本の伝統的表現方法について ○デザイン・絵画「切り絵」	・日本の伝統的絵画表現技法である切り絵について理解する ・切り絵制作のための道具の使い方について理解する				21	
	5	○デザイン・絵画「切り絵」	・切り絵の下絵の制作の工程を理解する ・自分の名前を切り絵の下絵としてデザインする ・切り絵制作のための道具の使い方を工夫して正確に制作する	○	○	○		
	6	○デザイン・絵画「切り絵」 ○プレゼンテーション	・自分らしいデザインを考え、切り絵の下絵を制作する ・自分の名前の切り絵制作の反省点を活かしながら、正確に制作する ・自分の作品についてプレゼンテーションを行う ・クラスメイトの作品について批評を行う ・「切り絵」制作について振り返りをする					
	7	○造形 「張り子 HALLOWWEENのお面」	・日本の伝統的造形表現技法である張り子について理解する					
2	8	○造形 「張り子 HALLOWWEENのお面」	・張り子の原型の粘土造形について道具の使い方を理解する ・自分らしさを表現できる張り子のデザインを考える ・道具の使い方を工夫しながら張り子の型を制作する	○	○	○	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・作品の完成度</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> </ul>
	9	○造形 「張り子 HALLOWWEENのお面」	・張り子の原型に工夫しながらきれいに新聞紙を張り付ける					
	10	○造形 「張り子 HALLOWWEENのお面」 ○プレゼンテーション	・絵の具の使い方を工夫しながら張り子に着色する ・自分の作品についてプレゼンテーションを行う ・クラスメイトの作品について批評を行う					
	11	○デザイン 「ポスター制作」	・IT機器、アプリの使い方を理解し、写真加工について理解する ・タブレット、スマホを使い張り子のお面の写真を加工方法を学ぶ ・写真撮影について効果的な表現方法を学ぶ ・工夫して自分らしいポスターデザインを考える	○	○	○		
	12	○デザイン 「ポスター制作」 ○プレゼンテーション	・絵の具の使い方を工夫しポスター制作をする ・自分の作品についてプレゼンテーションを行う ・クラスメイトの作品について批評を行う					
3	1	○造形・デザイン 「身近な素材を使って表現する」	・身近な素材を使って造形・デザインを考える ・ガムテープや新聞紙の効果的な使い方を考える				14	
	2	○造形・デザイン 「身近な素材を使って表現する」	・身近な素材を使って造形・デザインを考える ・ガムテープや新聞紙の効果的な使い方を考える	○	○	○		
	3	○造形・デザイン 「身近な素材を使って表現する」	・身近な素材を使って造形・デザインを考える ・ガムテープや新聞紙の効果的な使い方を考える ・自分の作品についてプレゼンテーションを行う ・クラスメイトの作品について批評を行う					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	制作工程の理解	道具の使い方の理解・工夫	課題・作品	発言・振り返り	プレゼン	出席	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	20	30	50				100	60
Ⅱ 思考・判断・表現	10	20	40	10	10	10	100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度				30	30	40	100	20
評価の重点	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②作品の完成度 ③技術の習熟度							

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	3	科	食物栄養科・生活福祉科
----	----	----	-----	-----	---	----	---	---	-------------

1、科目の目標

音楽を通して芸術的な感性を育てる。演奏技能を身につけ、楽曲の特徴をつかんで自分なりの表現ができるようにする。また、音楽を題材にした映画や演奏会を鑑賞し、様々な音楽について学び、名曲に親しむ。

2、使用教科書・副教材

教育芸術社 MOUSA 2

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	日本のポピュラー音楽（歌唱・器楽） 「ハナミズキ」「東京 VICTRY」「糸」「楓」	実技試験	18
	5月	自然な発声・呼吸法を見に付ける コードネームを理解し演奏する		
	6月	ミュージカル音楽（歌唱・器楽・鑑賞）		
	7月	「レミゼラブル」		
二学期	8月	外国曲の歌唱・鑑賞 「Vaga luna, che in argenti」「Sherry」「Amazing Grace」	実技試験	32
	9月	各地域の文化的背景を理解する 原語の語感を生かしながら表現する		
	10月	鍵盤楽器アンサンブル		
	11月	バレエ音楽（器楽・鑑賞） 「白鳥の湖」		
三学期	12月	ミュージックベル演奏	実技試験	20
	1月	ベートーヴェンの生涯と作品（音楽史・鑑賞） 作曲家の生涯や時代的背景、作品を学習する		
	2月	アンサンブルによる表現（歌唱・器楽）		
	3月	実習・発表		

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への発問・回答など対話形式を大切にして授業を進める。</li> <li>音楽から感じることを言葉で他者に伝え、感じたことを共有できるようにする。</li> </ul>
音楽への関心・意欲・態度	音楽文化に関心を持ち、積極的な姿勢で表現や鑑賞に取り組もうとしているか
音楽表現の創意工夫	曲を構成する様々な要素を考えながら楽譜を読み取り、表現意図をもっているか
音楽表現の技能	歌唱や演奏の基礎技術が習得され創意工夫を生かした表現できているか
鑑賞の能力	演奏形態・音楽史などを踏まえて作品のよさや美しさを感じ取れているか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎的な知識や演奏技能をしっかり習得することで表現する楽しさを感じることができる。また鑑賞では知識を持つことでより多くのものを曲から感じ取ることができる。関心を高め積極的に学ぶことが音楽をより楽しむ力になる。

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2	学年	3	科	全日制 食栄・福祉科
----	----	----	-----	-----	---	----	---	---	---------------

1、科目の目標

美術の学習を通じて、豊かな情操を育てるとともに、創造性を引き出すための技能及び批評と鑑賞の基本的な能力を養う。

2、使用教科書・副教材

日本文教出版株式会社 高校生の美術2

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	○日本の伝統的表現技術について学ぶ		18
	5月	○デザイン・造形 課題「張り子だるま」 張り子について学ぶ		
	6月	自分らしいデザインを考える 「張り子」を実際に制作する		
	7月	○美術・デザインを生活の中で活かす 課題「木製スプーン」		
二学期	8月	使用することが心地よい道具について考える。 切り出し刀、彫刻刀の使い方を学ぶ		32
	9月	○デザイン		
	10月	課題「Tシャツ、エコバックのデザイン」 自分らしいデザインを考える		
	11月			
三学期	12月	○美術・デザイン 課題「銅板レリーフ」		20
	1月	自由に表現をする		
	2月	○年間まとめ		
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作品を、言語によつて的確に伝える能力</li> <li>他の人の作品を論理的に批評する能力</li> </ul>
美術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席、授業中の取り組み、提出物から総合的に判断。</li> </ul>
美術表現の構想と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定された課題の意図を理解した上で、自分自身の興味関心・特性に応じて解釈し、工夫しながら表現する能力</li> </ul>
創造的な美術表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの表現に応じた技能の習得</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術作品や思想等について自分なりの視点を持ち、論理的に批評する能力</li> </ul>

5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎・基本的な知識・技能の習得をはかり、その後、生徒それぞれの興味・関心、特性に応じた、個別の学習を行っていく。自分の作品の意図等を他者へ的確に伝えること。また、他者の作品について自分らしく鑑賞することが科目の目標達成につながる。

令和4年度 「音楽Ⅰ」学習指導計画

学科	全学科		学年	1	履修	選択	
教科	芸術	科目名	音楽Ⅰ	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	MOUSA 1 (教育芸術社)		副教材(発行所)	MusicNote (啓隆社)			
目標	音楽の幅広い活動を通して生活や社会の中の音楽・音楽文化と関わり、知識・技能を身に付け、生涯にわたって音楽文化に親しみ音楽を活用していく感性と態度を養う。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	読譜と鍵盤楽器	高音部譜表の読譜と演奏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲の旋律やリズムを楽譜から読み取る</li> <li>・ 歌唱表現や器楽表現のための技能を身に付ける</li> <li>・ 楽譜のシステムに関心をもち、歌唱・器楽につなげていく</li> </ul>	○	○	○	10	
	5		大譜表の読譜と演奏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低音部譜表を読み、器楽の音域を広げる</li> <li>・ 鍵盤楽器を両手で演奏する技能を習得する</li> <li>・ 重唱や両手演奏で生まれるハーモニーを感じ取る</li> <li>・ 鍵盤楽器のクラシック作品の鑑賞</li> </ul>	○	○	○	11	
	6	管弦楽の鑑賞		楽器の理解と管弦楽の表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーケストラの楽器の種類とその音色や演奏の仕方を理解する</li> <li>・ 生活の中で耳にする音楽を文化的・歴史的背景と共に理解し味わう</li> <li>・ 曲の特徴をとらえ、自分なりの評価をする</li> </ul>	○	○	○	
	7		音楽理論(音名・音階・和音)	・ コードネームの理解に必要な音楽理論の知識を習得する	○	○	○	3	
2	8	和音・コードネーム	和音の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和音の構成とコードネームの表記方法を理解する</li> <li>・ 和音の種類とキャラクターを理解し表現に生かす</li> <li>・ コードネームを鍵盤楽器で演奏する技能を身に付ける</li> </ul>	○	○	○	7	
	9		コードネームによる楽曲の伴奏アレンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポピュラー音楽の伴奏を、コードネームをもとにアレンジする</li> <li>・ アレンジした伴奏を演奏する</li> </ul>	○	○	○	10	
	10	①コードネームによる 鍵盤楽器演奏	日本歌曲と外国の歌曲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまな言語や地域の歴史と文化に触れながら歌曲に親しむ</li> <li>・ 曲種にふさわしい発声や発音を身に付け表現に生かす</li> </ul>	○	○	○	4	
	11		合唱を加えた交響曲やオペラの鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲を構成する様々な要素や他の芸術との関わりを理解し、関心をもって鑑賞活動に取り組む</li> <li>・ 楽曲や演奏についての評価とその根拠について考える</li> </ul>	○	○	○	6	
3	12	演奏課題研究	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習のまとめとして各自の演奏目標を設定し、その目標に沿った選曲・編曲をする</li> </ul>	○	○	○	2	
	1		楽曲研究 演奏研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習を通して演奏方法や表現効果の理解を深める</li> <li>・ 必要な演奏技能を身に付け目標到達度を高める</li> </ul>	○	○	○	10	
	2		演奏発表 鑑賞と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選曲の意図や練習過程を紹介し演奏を発表する</li> <li>・ 評価シートによってお互いに評価し合う</li> </ul>	○	○	○	2	

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実技テスト	ノート・レポート	発言・発表	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	10	20	50		20		100	40
Ⅱ 思考・判断・表現	10	20	40	20	10		100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	10	30	10	20	20	10	100	30
評価の重点	①授業に取り組む意欲・態度 ②演習の取り組みと学習到達度 ③表現意欲							

令和4年度 書道 I

学科	商業科 生活福祉科 食物栄養科	学年	1	履修	必修
教科	書道	科目名	書道 I	単位数	2
教科書名(発行所)	書 I (光村図書)		副教材(発行所)		
目標	書の表現方法を幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えるようにする。また主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。				

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	漢字の書 ○楷書の学習	○楷書の基本点画(用筆法) ○九成宮醜泉銘の学習	☆書道の用具等について理解する。 ○九成宮醜泉銘の学習を通じて、書写能力の向上と楷書の基本的な用筆法を理解する。 ○九成宮醜泉銘の作者とその時代背景について理解する。 ☆古典(中国や日本などの過去の優れた書作品)を臨書(古典を真似て、その特徴を表現すること)に徹していく。	○	○	○	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の提出課題(作品)</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠、発言</li> <li>・以上を点数化し、総合的に評価する。</li> </ul>
	5								
	6		○孔子廟堂碑の学習	○孔子廟堂碑の用筆法や字形の特徴について理解する。 ○孔子廟堂碑の作者とその時代背景について理解する。	○	○	○	6	
	7		○牛橛造像記の学習	○牛橛造像記の用筆法や字形の特徴について理解する。 ○牛橛造像記が書かれた北魏の時代背景について理解する。				6	
2	8	漢字の書 ○行書の学習			○	○	○		
	9		○蘭亭序の学習 ○風信帖の学習 ○蜀素帖の学習	○蘭亭序の学習を通じて、行書の基本的な用筆法を理解する。 ○王羲之とその時代背景について理解する。 ○風信帖の用筆法とその字形の特徴について理解する。 ○空海とその時代背景について理解する。 ○蜀素帖の用筆法とその字形の特徴について理解する。 ○米芾とその時代背景について理解する。 ☆行書の用筆法と楷書の用筆法の違いについて理解する。	○	○	○	18	
	10								
	11	漢字仮名交じり書の学習	○自分の言葉を書作品として表現する	○漢字仮名交じり書の学習を通じて、用筆法、表現方法、作品構成等について理解する。					
	12	漢字の書 まとめ1	○半切2分の1の作品制作	○1、2学期の総まとめとして楷書、行書の古典の中から書きたい古典を選び、半切2分の1(35センチ×68センチ)の作品制作に挑戦する。	○	○	○	14	
3	1	仮名の書	○いろは帖の学習 ○仮名の連綿	○いろは帖の学習によって、仮名の基本的な用筆法及び字形について理解する。 ○連綿の連筆について理解する。					
	2	漢字の書 まとめ2	○半紙の作品制作	○1年間のまとめとして、主に漢字(楷書、行書)の古典を題材として半紙の作品制作を行う。	○	○	○	14	
	3								

70

【観別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言	プレゼン	検定・資格	その他	観別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能							40					40	40
Ⅱ 思考・判断・表現							20	10				30	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度							20				10	30	30
評価の重点	①毎時間の提出課題(作品) ②授業に取り組む姿勢、意欲、出欠、発言												